

## 第9回 安全性向上有識者委員会

### 議事概要

#### 1. 日 時

2016年6月8日（水） 12:30～14:00

#### 2. 出席者

<委員>

宮川豊章 委員長、山田基成 委員長代行、  
池田桂子 委員、小塚修一郎 委員、指田朝久 委員（委員は50音順）

※岡部直明 委員は、欠席

#### 3. 議 事

◆「安全性向上3カ年計画」の実施報告及び今後の取組み

#### 4. 議事概要

(1)「安全性向上3カ年計画」の実施報告について、事務局から説明後、この報告に対する有識者委員会としての意見が述べられた。

また、今後の取組みに際しての留意事項として、以下のようなアドバイスもあった。

【「安全性向上3カ年計画」の取組みに対する意見】（骨子）

○NEXCO中日本では、経営陣が先頭に立ち、取組みをチェック・フォローアップしながら組織的に継続して安全性向上に取り組んでいくことができる枠組みをつくり、その枠組みのもと、具体的な施策を体系化し、実行プロセスを見える化して全ての施策に精力的に取り組んできたこと、そして、以下のような成果をあげたことは、評価できる。

- ・安全性向上に向けた事業として計画した道路上などに設置された構造物の撤去、移設または二重の安全対策など、現時点で必要と考える対策を完了させたこと。
- ・個々の具体的な施策の成果を検証し、課題を認識した上で、今後も継続的に取り組むべき内容を明確にしたこと。

【今後の取組みに際しての留意事項】（骨子）

- 事故の記憶や安全を希求する気持ちを風化させることなく、安全性向上の取組みを継続していく必要がある。そのためには、経営陣が強いリーダーシップを発揮し、グループ一丸となって、粘り強く取組みを積み重ね、「安全」を日常業務の中に組み込んで定着させることが重要である。
  - 高速道路の安全を現実的に支えているのは、グループ会社を含めた現場の社員であり、その安全意識を高いレベルに間断なく保つとともに、意欲と誇りを向上させる必要がある。そのためには、経営陣は常に現場に向き合い、現場で起こっている事実を迅速かつ正確に聞こうとする姿勢、現場を重視する姿勢を、率先して具体的な行動で示し続けることが重要である。
  - 今後も劣化していく道路構造物では、これまでに経験していない事象が発生し得ることも考え、リスクに備えていく必要がある。そのためには、リスクに対する意識や感度を高めるとともに、経営陣と現場とがリスクを共有して、組織全体でリスクマネジメントを地道に継続していくことが重要である。
  - 「人」と「技術」は、高速道路の安全を支える基盤であり、「人」と「技術」に磨きをかけていく必要がある。そのためには、中長期的な視点から、安全を担う専門性をもった人材を育て、責任と誇りをもって、十分力を発揮して働ける環境を整えるとともに、高速道路の安全性を高める技術開発を推進することが重要である。
- (2) NEXCO中日本からの報告を受け、有識者委員会は、前記(1)【「安全性向上3カ年計画」の取組みに対する意見】(骨子)のとおり、「安全性向上3カ年計画」の実施とその効果、さらには、今後もNEXCO中日本が安全性向上の取組みを継続していく上で、有識者委員会と同様な組織を立ち上げ、社外の視点からの意見やアドバイスを採り入れていくこととしていることを確認し、同委員会は終了した。

以 上